

医療

心臓病治療の技術を病院の系列を超えて医師から医師へ伝え、医療の質を高める動きが広がっている。実力のある医師に学ぶ仕組みや、若手医師が手術の腕を競うコンテストも。治療成績を公表する医療機関も増え、医療機関の間の壁に、少しずつ風穴が開き始めた。

心臓病とたたかう

「ワイヤを回しすぎ。ほんの少し回すだけで、すっと入っていきますよ」。心臓病の専門病院、豊橋ハートセンター(愛知県豊橋市)のカテーテル治療室。世界トップレベルの技術を誇る加藤修医師が、カテーテル操作のコツを身ぶりを交えて教える。

患者と共に訪問

指導を受けているのは、東北地方の循環器専門病院の藤井真也医師だ。「技術を高めたい」と同センターが昨年から始めた「心臓病カテーテル共同治療プログラム」に申し込み、担当する男性患者(48)と一緒にセンターを訪れた。患者は約七年前、詰まった冠動脈に網状の筒(ステント)を入れる治療を受けたが、また血管が詰まったため、再度の治療が必要だった。

技術アップへ系列超えて



血管内に固定した。技術の違いを目的の当たりにした藤井医師は「血管を破ってしまうのが怖くて、力を入れられなかった。どの位まで力を入れても大丈夫なのかを体得しなければいけないと痛感した」と話す。患者の男性も「系列病院に関係なく、医師が実力のある施設で高度の技術を学ぶことは医療の向上につながる」と評価。加藤医師も「カテーテル治療はそれ

若手医師に熟練の技伝授

「チャレンジャーズ・ライブ」の決勝戦でバイパス手術をする医師(7月20日、東京都新宿区)

別の病院に勤務 「自分たちが三十歳の時にこんな場があったら飛びついたトレーニングプログラムを作ろう」。大和成和病院(神奈川県大和市)の南淵明宏・心臓外科部長は三年前、三十代前半の医師を対象に「COMIC」と名付けた組織を立ち上げた。現在、同病院や豊橋ハートセンターのほか、北海道大野病院(札幌市)、新東京病院(千葉県松戸市)の症例数が多い四施設が参加。計四人の医師が一年ずつ各施設で働く。熟練の技を盗

公開の治療成績 内容にバラツキ

心臓病治療でもホームページで治療成績を公開する病院が増えている。ただ、単に症例数を掲載するだけの施設から、手術による死亡率を学会が調査した全国平均と併せて紹介する施設まで、内容にはばらつきが大きい。「同じ手術方法でも患者の状態(重症度)で危険性は大きく異なる」と説明するのは福島県立医大病院の横山齊教授(心臓血管外科)。ホームページでは死亡率と学会の全国平均に加え、欧州の方式で算出した重症度を加味した「平均予測死亡率」を掲載している。

Table with 2 columns: 学会 (Association) and 心臓病の治療法や治療成績などが分かるホームページの例 (Examples of homepages providing heart disease treatment methods and performance). Rows include Japanese Heart Catheterization Society, Japanese Coronary Artery Bypass Society, Sendai Kousei Hospital, etc.

日本胸部外科学会では各手術の平均死亡率などをアンケート調査しているが、その結果は英文の学会誌で発表。日本冠動脈外科学会も調査結果をホームページに掲載しているが、やはり専門家向けで難しい。

「意見、情報をファクス(03-5255-2420)か電子メール(ryou@tokyo.nikkei.co.jp)でお寄せください。お住まいの都道府県名、年齢、職業、性別もお書き添えください。」

▼心臓病の治療法 冠動脈の血流が詰まる虚血性心疾患(狭心症や心筋梗塞)には、内科的、外科的治療法がある。カテーテルを入れる内科的治療法は1980年代に導入され、国内で年間約17万人に実施。冠動脈が再び狭くなることを防ぐ薬剤を塗布したス

ことば

テントが昨年承認され、さらに増加している。外科的な冠動脈バイパス手術は、カテーテル治療では治せない患者に対して行う。年間約2万人が受け、人工心肺装置を使わないで心臓を動かしたまま血管をつなぐ方法が半数を超えた。